

## 第 116 回定時株主総会の質疑応答要旨

2019 年 6 月 26 日（水）に第 116 回定時株主総会を開催し、5 名の株主様から 6 件のご質問・ご意見をいただきましたので、その要旨と当社からの回答を下記のとおりお知らせいたします。

### 記

**Q1:** 連結業績数値見通しとして、2022 年度に経常利益 280 億円を計画されているとのことですが、このときには復配ができるのでしょうか。決意も含めお話いただければと思います。

**A1:** 復配の時期について具体的に申しあげることにはできませんが、できる限り早期に復配できるよう経営努力をしていきたいと考えております。

**Q2:** 確定給付型年金と確定拠出型年金のどちらを採用しているのでしょうか。新しい年金のあり方として、確定拠出型年金が増加しているようですが、確定拠出型年金は導入しないのでしょうか。

**A2:** 当社では、確定給付型年金・確定拠出型年金のいずれも導入しておりません。また、確定拠出型年金の導入につきましても、現時点では検討しておりませんが、今後検討いたします。

**Q3:** 千葉工場における事業ポートフォリオの変革として、段階的にエネルギーエンジニアリング及び大型構造物を対象とすることになっていますが、今後具体的にどういったものを製造していくのか教えてください。

**A3:** 首都圏に立地し東京湾に面しているという特色を活かして、千葉工場における事業ポートフォリオを変革していきたいと考えております。具体的には、今後の需要が期待できるガス運搬船向けのタンク及び艀装関係、ここ数年手がけている沈埋函、大型のケーソン、橋梁関係又は様々な大型構造物、タンク等を主体にしていきたいと思っております。

**Q4:** 2018 年度が業績の底であり、今後は業績が改善に向かうということでしょうか。

**A4:** 今後は売上至上主義ではなく、採算を重視する経営に舵を切り、必ず利益が出るように経営していく所存です。株主をはじめとしたステークホルダーの皆様にご理解いただけるような経営を行い、業績を改善していくことを決意しております。

**Q5:** 船舶でも自動運航技術に取り組んでおり、小さな船から始まってかなり研究が進んでいるということを聞きました。建造している大型の船で、そのようなことを研究・開発されているのでしょうか。

**A5:** 船舶の自動運航については、ほぼ実用化の段階に到達しており、当社は業界の中でもトップクラスの技術を持っていると認識しております。船員等の負荷が増大していることや、安全性の観点から、今後は船舶の自動化・自律化といった機能は非常に重要になると考えております。既に一部の船舶には搭載しており、今年度は大型船での実証試験を予定しております。こうした需要に対して、我々の技術で応えていきたいと思っております。

**Q6:** 女性の役員を登用する意向はないのでしょうか。

**A6:** 男性役員のみとなっておりますが、多様性を考慮した人員構成としております。しかしながら、社内でも部長クラスに女性の登用が進んできており、他社での登用も進んでいることから、当社も今後は女性を役員として登用するようになると考えております。取締役の構成については、柔軟に対応していかなければ、経営が社会の潮流に合わなくなると考えております。

以 上